

JAMトピックス

JAM南東北 福島 東日本大震災追悼集会

あの日から10年 絶対風化させてはならない

主催者を代表してあいさつするJAM南東北福島県連会長・坂路芳知委員長（アネスト岩田労組福島支部・福島県南地協）



あの日、2011年3月11日（金）14時46分から10年が経過した。福島第一原発の周辺では、今もなお、除染がされておらず帰還困難区域に指定されている地域もある。一方で、時間の経過と共に被災地への関心は薄れつつあるが、この体験と記憶は絶対に風化させてはならない。

JAM南東北福島県連は「東日本大震災追悼集会」を2年ぶりに開催した。震災翌年から毎年行ってきた追悼集会は昨年、新型コロナウイルスの影響で開催断念し、10年経過した3月27日に「福島

第一原発」から10km圏内の「双葉町産業交流センター（福島県双葉郡双葉町）」で8回目の追悼集会を開いた。

参加者全員による黙とうで始まり、主催者を代表して坂路芳知・福島県連会長は「日本人、福島県民、JAM組合員として常に追悼の気持ちを忘れずに過ごしている。災害は必ずやってくる。日本中どこで何があるかわからない。JAMには素晴らしい助け合いの共済制度がある。ぜひ活用してほしい」などと述べた。



追悼の気持ちを忘れずに黙とうを捧げる



今年は密にならないように約100人で開催